



## 株式会社浅井農園

法人名	株式会社浅井農園
代表者名	代表取締役 浅井 雄一郎
主な経営作物	花木、施設(トマト)、果樹(キウイフルーツ)
その他事業	—
従業員数	23名(常雇用) 82名(臨時雇用)
関連会社	株式会社アグリッド、うれし野アグリ株式会社
売上	非公開

技術研究	農業ICT	環境制御技術(施設)	契約栽培(BtoB)
規模拡大中	国際色豊かなメンバー	社員が30代中心	組織的経営

高軒高トマト栽培施設に、高度環境制御システムや労務管理システムの農業ICTを活用して、日本トップレベルの生産性を誇る高付加価値ミニトマトの生産に取り組む。独自の品種開発やトマト収穫ロボットの開発等にも取り組み、「常に現場を科学する、研究開発型の農業カンパニー」を目指している。

近年では、NZのゼスプリインターナショナルとの業務提携により、キウイフルーツの大規模園地開発にも取り組んでいる。

三重県内で初めてGlobal GAP認証を取得するなど、5Sの徹底をはじめ、従業員の組織的な労務環境の整備に取り組む。

## 当法人における人材育成目標

### 指導体系図



☆ . . . 受入責任者  
■ . . . 受入の主な部署

### 3年後の到達目標

- “自社独自の品種・栽培技術力の研究開発・構築”を担える探究心と専門知識
- 今後の浅井農園の発展を支える生産現場の組織マネジメント力

### 法人で求める基礎的な素質

#### 【求める人物像】

- 想い・意志がある人
  - 熱心に仕事に打ち込める人
  - コミュニケーション能力  
(大勢のパート※女性従業員への指示だし、組織内での連携)
  - 誠実、時間を守る
  - 自分からアクションを起こす(分からないことは貪欲に聞く・調べる等)
- ※経験不問、学力は不問

### 経営者・経営陣としての考え

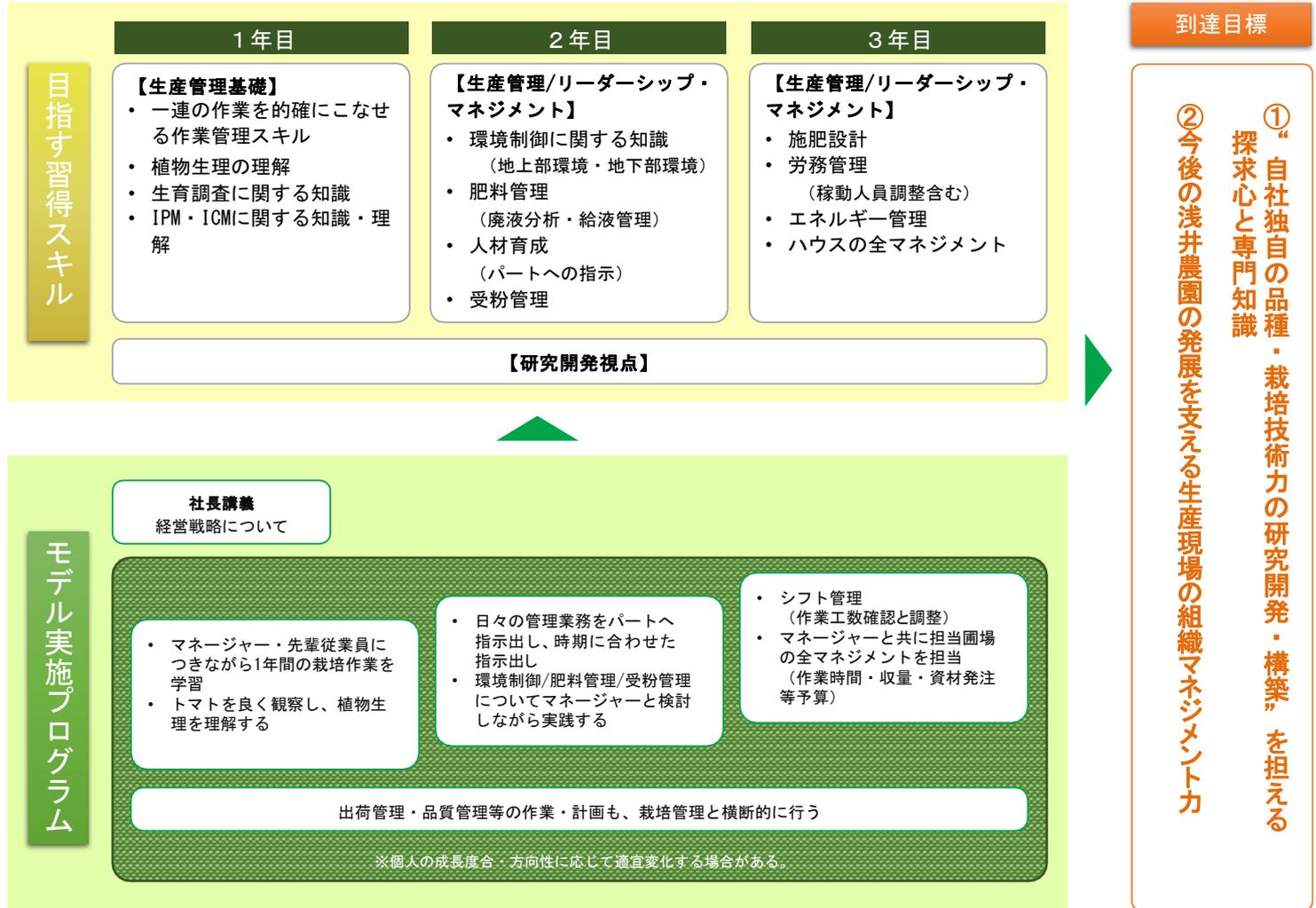
5代続く農園であり、これまでは三重サツキ・ツツジの産地発展に尽力してきた。バブルの影響により、植木の需要が減少していく中、第2期創業として新たに「トマト」栽培を2008年頃から開始。

浅井農園は、食品の原材料であるメーカー。自分達で作ったものを、自分達で売るという事に重きを置いている。また、自社特徴としては研究開発にも重きを置いており、種や栽培技術開発を他産業企業との連携や、自社内でも検討を重ねながら、自社でしか作れない技術・美味しいトマトを開発すべく、「常に現場を科学する研究開発型の農業カンパニー」を目指している。

日々研究をしながら栽培管理に励み規模を拡大していきながら、生産に関わる個々人が「研究開発視点を持ち」、今後の浅井農園を支える生産事業部の、「将来的な中核人材」を強化したいと考えている。

# インターンシッププログラム フロー

コース特徴	指導体制	継続雇用の有無
施設栽培（トマト）の高度な技術習得 組織マネジメント力が身につく	担当者：生産事業部 農業技術習得：マネージャー	有 ※ただし、本人の適正・面談等による



## 法人における研修要素例

### 生産に関わる項目

項目	実施時期
植物生理の理解	1年次～（実践）
IPM / ICM	1年次～（実践）
作業管理	1年次～（実践）
環境制御	2年次～（実践）
肥料管理	2年次～（実践）
ICM	2年次～（実践）
受粉管理	2年次～（実践）
人材育成（パートへの指示出し・パート教育）	2年次～（実践）
労務管理（作業時間・稼働人数調整等）	3年次～（実践）
エネルギー管理	3年次～（実践）
収量管理	3年次～（実践）
担当ハウスの予算管理	3年次～（実践）

### その他項目

項目	実施時期
出荷調整	1年次～
研究開発※個人研究	1年次～

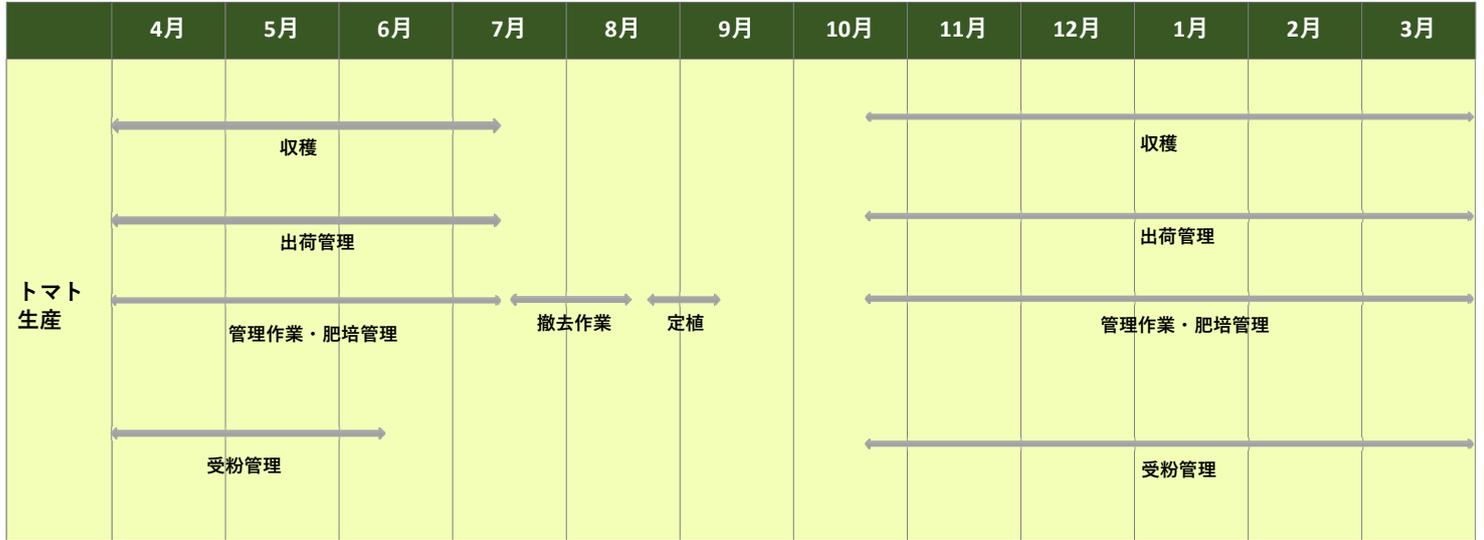
### その他備考

## 研修目標到達の検証方法

- 生産事業部長による定期的なヒアリング
  - 1年間の個人の研究テーマを掲げて、研究・成果発表を行う
  - 人事評価のためのMBO制度（目標設定と、責任者との面談）
- ※その他、農の匠事業のプログラム相談員との面談等

## （補足）法人における年間・日々の営農スケジュールイメージ

### 年間栽培スケジュール・イベント



### その他定期的な業務/不定期なスケジュール

定例業務等	不定期業務
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 5S会議/生産者会議（生産に関わる社員）は週一で実施</li> <li>• その他 労務管理（毎日）、病害虫管理（毎週）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生産開発の会議</li> </ul>